



2024年11月28日
第85号

JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一
編集 情宣 担当
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

横地申
第41号

東海道線横浜～川崎駅間生見尾踏切での人身事故において発生した関係者が 作業中に隣接線の抑止が解除された事象の原因究明を行い、運行優先ではなく 11/21安全で安心して業務に従事できる環境を求める申し入れ 1期日目その②

2. 人身事故発生時、最初の現地責任者である当該列車の運転士が線路形状を把握し支障線区の抑止手配を行うことから、後の現地責任者である駅係員等は、引継ぎを行う際、必ず当該列車の運転士に支障線区の確認を行うこと。
【会社回答】関係通達等に則り適切に対応しているところである。

組合	会社
具体的にどのような対応をしているのか。	遵守事項として、現地責任者は作業者と相互に支障線区を確認する。
相互に支障線区を確認する方法は。	基本は対話。状況によっては輸送指令を介して確認する。
警察・消防・作業者が来てごった返していた。現地責任者の負担が大きい中、ルールが守られるのか。	現場には多くの人が立ち入り錯綜する。現地責任者として守るべきところは守る。結果として2次災害を防止できる。
現地責任者は線路形状を把握していたのか。	踏切から東京に向けて狭くなっているのは認識していた。
なぜ横須賀線と京浜東北線の抑止を解除したのか。	運転士や検査係の作業内容を把握していなかった。
現地責任者と本務運転士は踏切付近で引継ぎをした。抑止解除だと運転台に戻るルートが無くなる懸念がある。	抑止解除する際は、支障線区を確認、車両点検、負傷者の救出活動にどの部分が影響するのか、共通認識として確認する。
「通達」は抑止をかける運転士、抑止を解除する現地責任者と認識が一致できる状態になっているのか。	現地責任者に遵守させる事項が定められた。作業者全員に抑止解除する線区が伝達されたこと、作業者全員が安全な場所への退避が確認されたことを作業の責任者に確認したうえで輸送指令に報告する。相互の確認が極めて重要である。
口で言うのは簡単だ。現場でやるのはとても難しい。教育・訓練が必要だ。	ルールもあるが教育と訓練が重要だ。

3. 現地責任者は、隣接線等の抑止解除を行う際、関係する社員、消防、警察が対象線路外に待避し安全が確保されていることを確認するとともに、関係する社員、消防、警察に抑止解除することを確実に伝達すること。
【会社回答】関係通達等に則り適切に対応しているところである。

運転士が根拠をもって抑止している。抑止解除は運転士自身が絡むべきである。	「通達」によって現地責任者を引き継ぐ場合も、現地責任者に遵守させることを定めた。作業責任者間(運転士含む)において相互に支障線区を確認する。
「通達」で抑止を確実に伝達することとなっているが、対面を想定か。	対面で想定している。現地責任者と作業責任者間で伝達できない場合、輸送指令を介し伝達となる。
京浜東北線(南行)が来ていたら作業者は死んでいた。安全よりも安定になっていないか。	作業者全員に伝達できない場面があるかもしれない。伝達を確認できるまで抑止を解除しない。安全が第一の認識に変わりはない。
なぜ一部抑止解除したのか。	現場は東海道線と京浜東北線は離れている形状で、警察・消防、JR社員に京浜東北線・横須賀線を運転再開させると伝え抑止解除する判断をした。安全に抑止は解除したが、作業者の作業内容を把握していなかった。
消防から抑止解除を知らされ、京浜東北線南行が動くことを予感した。検査係にIP無線で再度抑止をかけてもらい命が救われた。一部抑止解除は適切な判断か。	隣接線の抑止が解除されたことが伝わっていなかった。現地責任者は配下に入っている人を把握する。把握できないと誤った判断をしてしまう。部分的に把握しきれなかったことが教訓だ。
現地責任者の業務量が増大している。一部抑止解除に向けての手順は適切だったのか。	現地責任者が前頭部で作業行うことが分かっている、隣接線に立ち入っているとすれば抑止の判断になる。抑止解除までは必要な手続き踏んだが、一部の方に伝わらないことに問題意識がある。
現地責任者から運転再開はどう伝えたか。	当該運転士：運用指令から業務用携帯電話。対向列車の運転士：現地責任者から伝えられていない。検修社員：IP無線を聞いていた。警察・消防は現地責任者と対面。
無通告の取扱いも増え、指令・乗務員の通告が軽くなっている。現地責任者の配下になる。様々な情報を一元化していく必要がある。指令番号・時刻・指令者など抑止への重みが必要だ。	非常に大切なところだ。遵守事項を守ることは変わらない。抑止解除の判断は現地責任者が輸送指令を介し確認したことを踏まえ、責任を持ってやってきた。

運行優先体質になっていないか、仲間の命を守るために職場から議論を巻き起こそう！